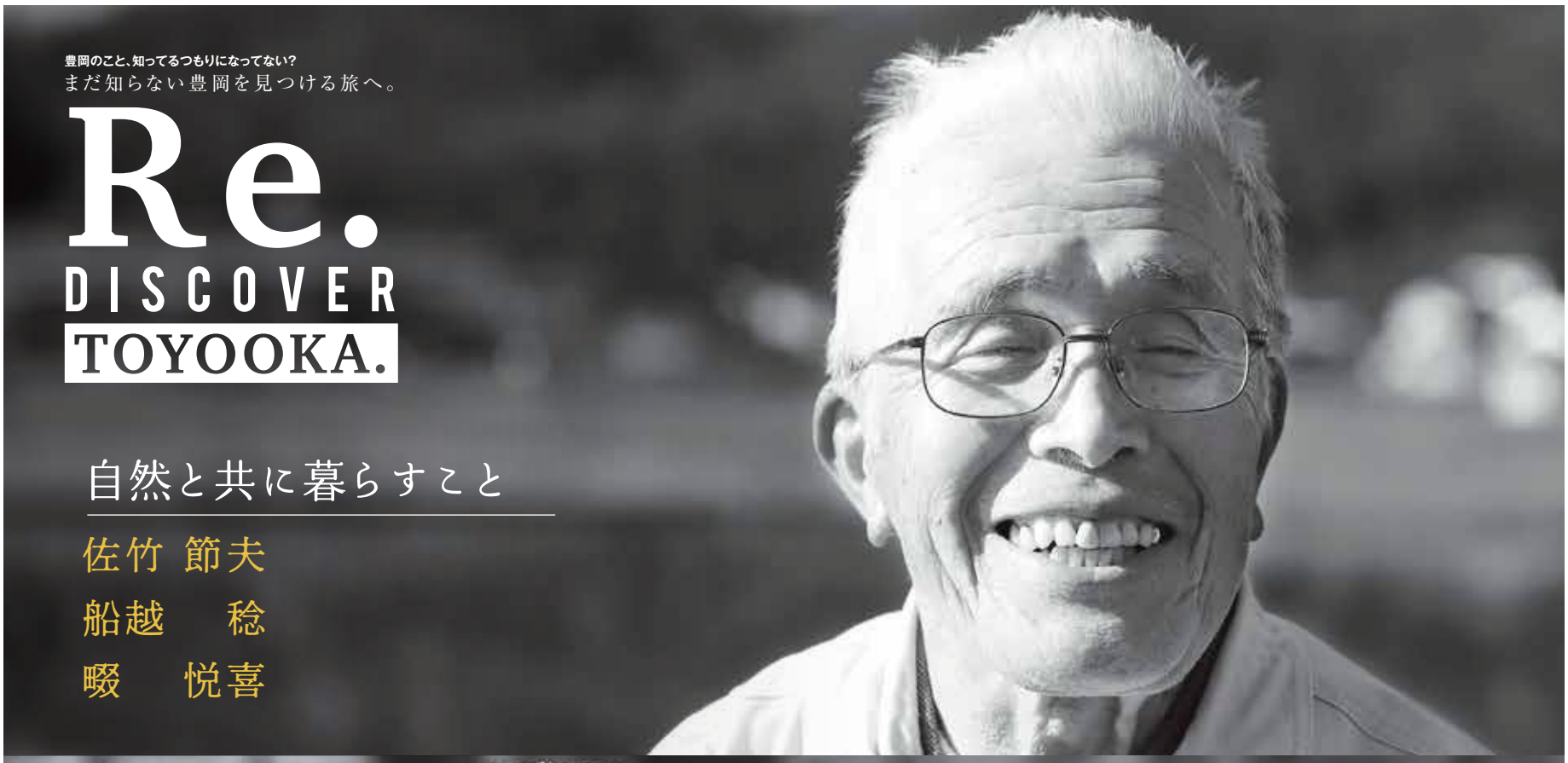
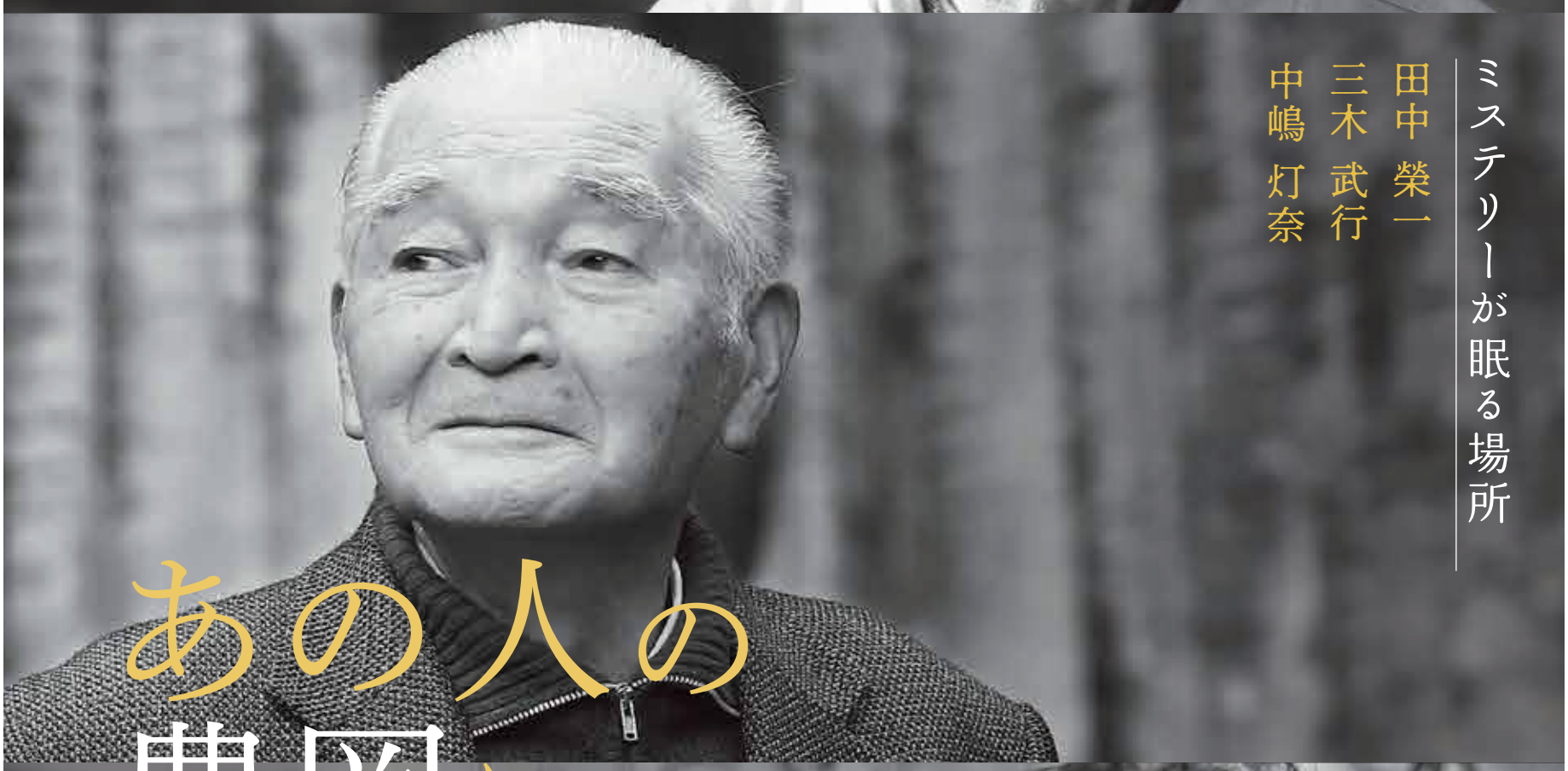
豊岡のこと、知ってるつもりになってない?
まだ知らない豊岡を見つける旅へ。

Re. DISCOVER TOYOOKA.



自然と共に暮らすこと

佐竹 節夫
船越　稔
畷　悦喜



ミステリーが眠る場所

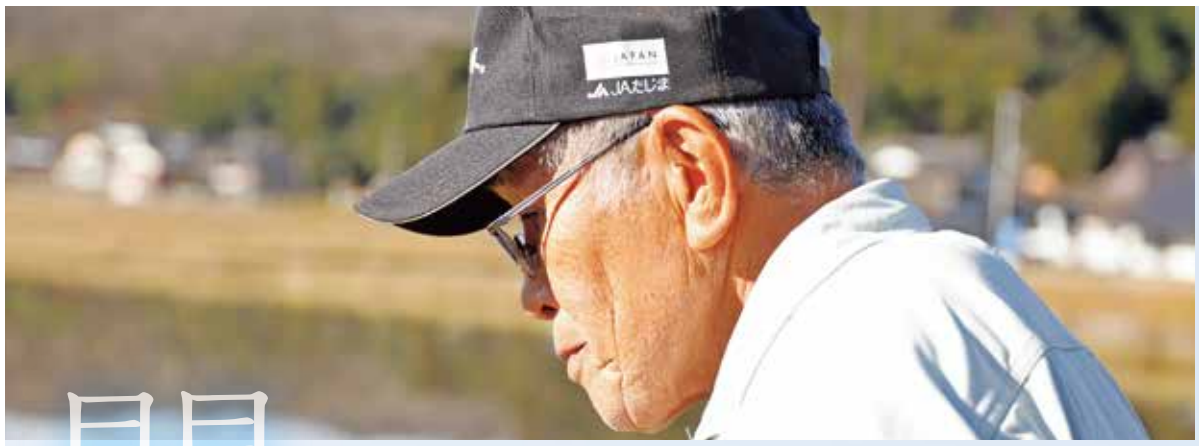
田中 榮一
三木 武行
中嶋 灯奈

あの人の豊岡に会いに行く

－豊岡の観光にもたらしたもの－

入っているのは私のすべて

宮﨑 和子



闘い

**豊岡に住む人にとっては身近なコウノトリ。
絶滅してから野生復帰するまでの道のりをたどると、
これからの「人と環境」の未来が見えてきます。**

パンダも大好物！コウノトリ育むお米

豊岡のお米といえばコウノトリ育むお米。農薬・化学肥料に依存しない栽培方法で作られ、柔らかく粘りがあり、おいしいお米と全国的に知られるようになりました。人間だけではなく上野動物園のパンダ、リーリーとシンシンもコウノトリ育むお米を使った「パンダだんご」が大好きなのはご存じでしょうか。

豊岡でコウノトリの野生復帰が実現したのは、豊岡の水稲農家が農業活動によってコウノトリが住める生態系の多様性を作ってきたことが大きな理由の一つです。

戦後、農薬・化学肥料の使用や水田の乾田化、護岸のコンクリート化が進み、1971年に姿を消したコウノトリ。絶滅前から人工飼育、人工繁殖に取り組んでいましたが、人工ふ化の条件が他の鳥類と異なっていたために難航し、成功したのは人工飼育を始めて25年後の1989年でした。その後、飼育個体は少しずつ増加していきました。豊岡では1990年台半ばから、農産物と生き物が同じ環境で共存する「環境創造型農業」に舵を切っていくことになります。

忘れられない記憶

コウノトリ育む農法※1に初期から参加している畷悦喜さんは、1995年から本格的に有機農業への転換を始めました。1996年にアイガモ農法に挑戦し、翌年には完全無農薬栽培を開始しました。2003年からはコウノトリ育む農法での米作りに取り組み始めます。きっかけになったのは、子どものころのある記憶でした。

「わしが小学6年生の時かなぁ。初めて除草剤をまいたのを覚えているんだけども、ドジョウやフナ、タニシは全部死んでしまって、プカプカと川に浮いていたなぁ。あれはショックで、今でもその光景は忘れられへん」

無農薬でのコウノトリ育む農法は、たったの3人でのスタートでした。兵庫県立コウノトリの郷公園ができてからは、畷さんの住む祥雲寺地区でコウノトリを受け入れる環境づくりが話し合われ、25人の農家が参加しました。

「始めたころは雑草との闘いやった。深水管理するから畦畔は崩れやすいし、除草機なんてないから、重たいチェーンをぎょうさん棒につけて田んぼの中を歩いとった。振り返ったら苗が全部チェーンに引っかかってなくなってしもたこともあった」と話します。

最初の年はうまくいって、目標としていた反収が収穫できたが、3年目ぐらいから雑草のコナギが生えてきて収量が落ち、ひどい時は反収が例年の8俵から5俵まで下がったそう。

その後も有機肥料を改良したり、魚道と田んぼをつなぐ水路を増やしたり環境を改善してきました。

受け継がれる意思

コウノトリ育むお米を作られてきた理由は何なのかを畷さんに尋ねると「誰でも安心しておいしいお米を食べたいやろ。ただそれだけ」

生産者であり、消費者でもある立ち位置で、自分の作ったものに責任を持ち、お米を作る環境を考え続けてきた畷さん。2021年、「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」ではコウノトリ育むお米が有機農業・環境保全型農業部門で農林水産大臣賞を受賞しました。畷さんをはじめとする農家の方の思いが、若い人達にも受け継がれ、広がりをみせています。

※1　コウノトリ育む農法
おいしいお米と多様な生き物を育み、コウノトリも住めるゆたかな文化・地域・環境づくりを目指すための農法。生き物が生息しやすい環境づくりのために、冬の田んぼにも水を張る「冬季湛水」の実施、育苗段階からの有機質肥料の使用、無農薬または減農薬（魚毒性の低いものに限る）での安全・安心な栽培など、様々な技術を採用している。

偶然の縁で飼育員に

二人目は畷さんの水田の目の前にあるコウノトリの郷公園で主任飼育員をされている船越稔さん。コウノトリの飼育員になる前職は意外にもスーパーに勤務されていました。大学の先輩から絶滅したコウノトリを復活させるプロジェクトの話を聴いてロマンを感じ、飼育員募集のテストを受けたらなんと合格。色々なタイミングが重なり、コウノトリの飼育員になりました。

手探りの毎日

コウノトリの人工ふ化の前例がなく、ふ卵器での人工飼育は全くうまくいきませんでした。ふ化する条件が他の鳥と異なっていたため、松島興治郎さんをはじめ、様々な先輩方にアドバイスをもらい試行錯誤が続きました。

「ニワトリなど一般的な鳥の卵はふ卵器の中で縦に置きますが、コウノトリの場合は横でした。温度（37・4度）と湿度（40%～45%）に保ちながら、1時間に1度転卵させ、1日に2回卵を冷やす。他の鳥の場合、ふ卵器の湿度は48%～52%が一般的だったので、ふ化の必須条件が湿度だとわかるまで3年の月日がかかりました」

コウノトリの野生復

種の保存

飼育員の一日

当時の飼育員の仕事は、朝6時に飼育ヒナに餌をやり、ケージの中の様子をVHSで記録。19時に再び給餌し、合間に風呂や食事を簡単に済ませて、近くの小屋で21時に就寝するというハードな毎日でした。週6日そんな日が続き、休みは1日。施設は今ほど充実していなかったこともあり、カップラーメンを食べようとお湯を沸かしたら、ふ卵器のブレーカーが落ちて大慌てしたこともあったそう。そんな毎日が続いたら嫌にならなかったんですか、と聞くと船越さんは笑いながらこう答えてくれました。「うーん、毎日大変でしたけど、不思議と苦にはならなかったなぁ」

後世に残す教科書を作る

並々ならぬコウノトリへの愛情があったからこそ続けてきたことなのかと思いきや、船越さんからは意外な答えが返ってきました。「コウノトリに対する愛着はとてもありますけども、絶滅した鳥を復活させるという誰もやったことがない仕事に魅力を感じていたことも大きかったかもしれないですね。後世に残す教科書を自分達が作っている感覚です」

地元の財産を引き継ぎたい

コウノトリの未来は特別な鳥ではなく普通種になることだと船越さんは言います。「今はIPPM-OWS※2の個体識別システムを使ってコウノトリの生まれた場所、行動範囲が分かる。つまり、生まれた場所と地域をつないで、交流することができる。これはコウノトリしかできないことなんです。研究だけではなく『人と人』、『人と地域』をつなぐことができる特別な鳥。野生復帰は世界でも例を見ない活動だし、ここ豊岡で国際会議が開かれることの意義は大きい。これからは今までの経験と飼育のデータを整理し、次の世代に引き継いでいきたい」と話します。

※2　IPPM-OWS
コウノトリの個体群管理に関する機関。施設間パネル。

足環による個体検査のシステム▶

コウノトリから学ぶこと

コウノトリを環境のシンボルにし、コウノトリが住める環境を守りながら保護活動を進めてきた豊岡市。行政の立場でこの活動を牽引してきたのが、現日本コウノトリの会代表の佐竹節夫さんです。1990年、行政の中に「文化」を取り入れる動きが活発になった時期に、社会教育課の文化係に配属。文化財の一つであるコウノトリ保護も担当となり、コウノトリの郷公園の建設計画等を進めてきました。

就任した時は保護増殖センターにヒナが2羽、成鳥が9羽（2ペア）いました。施設が不足していたので、新しく第5ケージを建設したり、敷地を拡大したりするなど走り回る日が始まりました。

ターニングポイント

1991年、コウノトリの保護に取り組んでいることを全国に知ってもらうために、豊岡の印刷会社と「赤ちゃん注意報」というポスターを作り、全国の自治体や山手線の駅に貼り出しました。「コウノトリも住める環境を作っていこう」というメッセージを全国に発信し、豊岡市の知名度が上がりました。

この先、どのように分散飼育を進めていけばいいか模索していたとき、日本動物園水族館協会の主催する「種の保存委員会」に参加し、IUCN（国際自然保護連合）の「野生復帰」という概念や先進事例に触れ、「これだ」と思ったと言います。

その後、王子動物園の獣医である村田浩一さんや動物園関係者、文化庁調査官、豊岡在住の新聞記者など、行政の外にいる人達とも積極的に意見交換し、方向性を探っていきました。

生物多様性保全や持続可能な地域づくりが世界の潮流になっていく中で、自分たちの目指す方向は間違っていないと確信へと変わっていきます。

2002年の夏、放鳥の準備を進めていた中、一羽のコウノトリが豊岡の地に舞い降りました。大陸から渡ってきた「ハチゴロウ」でした。舞い降りた先の一つはその後、「ハチゴロウの戸島湿地」として整備されます。2005年にはコウノトリの郷公園から、飼育コウノトリ5羽の自然放鳥があり、順調に分散飼育と野生復帰が進んでいきます。

第2の危機と原点回帰

「コウノトリが絶滅した時が第1の危機だとすると、今は第2の危機に直面している」と佐竹さんは話します。「必死で野生復帰をがんばった人が引退し始めて、コウノトリが身近にいることが『当たり前』の感覚になり、関心も薄れてきたのが今の豊岡かもしれません。原点に戻り、コウノトリが身近にいる豊岡で暮らすことの意味を、一人ひとりが改めて考えないといけない時期に来ている」と考えています。

豊岡の誇れること

「豊岡人の世界観を表すのに『まぁ、ええがな』という言葉があります。一見、消極的なあきらめのような言葉ですが、実は自分の正義を人に押し付けない積極的な肯定の価値観ではないか」と佐竹さんは考えています。野生復帰や有機農業の考えの違い、世代間の価値観のずれ、街づくりと開発の境界線……白黒つけるのが正しいとされる世の中ですが、昔からファジーな境目の文化を持つ豊岡の人は、一歩進んだ未来の価値観を持っている。コウノトリと長年関わって見えてきた、豊岡の誇るべきことの一つだと言います。

次の目標

2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標「SDGs」、そこに掲げられていることは、豊岡がすでに40年以上前から取り組み始めていた事でもあります。

豊岡に住んでいると、日常生活、仕事、自然環境は一本の線でつながっています。農家、行政、政治家など異なる立場の人が、同じ目線でコウノトリを通して自分たちの住む環境を考えることができるようになりました。佐竹さんの次のテーマは「大陸とのつながり」です。「韓国、中国などと連携して、もっと広い視点で考え、行動し、つながっていくため、人工巣塔を各地に建てたい」と夢が次々ふくらんでいます。

畷（なわて）　悦喜（えつよし）さん
1938年生まれ。コウノトリ育む農法を取り入れ、無農薬栽培に取り組んでき第一人者。

船越　稔さん
兵庫県立コウノトリの郷公園主任。入所当時から飼育下での繁殖を担当し、飼育員歴 31 年目。

佐竹　節夫さん
1990年からコウノトリの保護、人工飼育、野生復帰に携わる。日本コウノトリの会代表。

帰がもたらしたもの

まあ、ええがな

つながり

後世に

ハチゴロウ

田中 榮一さん
1934年、豊岡市赤石生まれ。株式会社玄武洞観光会長。公益財団法人玄武洞ミュージアム館長、兵庫県杞柳製品協同組合理事長、財団法人但馬地域地場産業復興センター理事を務める。

三木 武行（たけゆき）さん
兵庫県立八鹿高等学校で長年地学の教員を勤める。山陰海岸ジオパークの専門員。現在、八鹿高校の臨時講師。

私たちは ジオパークの中で 暮らしている

時空を超えた知のテーマパーク、
「山陰海岸」そこはミステリーと新しい発見が
交差する驚きの舞台でした。

豊岡の観光大使

但馬地方で記録的な大雪が降った1934年、玄武洞ミュージアムの館長の田中榮一さんは生れました。玄武洞ミュージアムが出来るまでには田中さんの青年期の体験が大きな影響を与えています。

10代後半から赤石地区の青年団に入った田中さんは、豊岡の発展のために地域づくりに積極的に携わります。「観光」がこれからの豊岡のキーワードになると考えた田中さんは、当時の山陰海岸国立公園協会の会長にこれから何をすべきか話を聞いたり、県の講習会に出席して学んだりしながら知識を深めていきました。自ら勉強を始めたのは、「豊岡から若い人がどんどん都会に出ていき、このままではこの地域が廃れてしまう危機感があったから」と言います。

「一生但馬で生きていくと決めた僕たちの拠点になる場所を作りませんか」。青年団の会長として1市18町の青年団を統括していた時に、当時の兵庫県知事、阪本勝氏に働きかけ、「但馬文教府」※1を設立するよう進言したのは田中さんたち但馬の若者でした。

豊岡の魅力、観光資源は何なのか。その答えに気づいたのは農業の傍ら、浜坂から香住にかけての山陰海岸国立公園※2で遊覧船を使った観光業の立ち上げを手伝っていた時でした。船から見える山陰海岸の景色を見ながら、豊岡の誇るべきものは「玄武洞」だとはっきりわかったと言います。そこから独自で石の勉強に没頭し、玄武洞ミュージアムの誕生、山陰海岸ジオパーク認定への活動につながっていくことになります。

※1　但馬文教府
芸術文化、環境、福祉など豊かな人生を送るための生涯学習、地域づくり活動やボランティア活動などを支援している県立の施設。

玄武洞ミュージアムを作る理由

「玄武洞」という豊岡の財産をもっと知ってもらいたいと考え、1976年に玄武洞の資料、文献、論文、絵や短歌俳句を集めて「玄武洞資料館」を開館。日本各地の火山・地球関係の博物館を見て回り、専門家の書いた論文や岩石・鉱物についての本を夢中で読みました。1983年には豊岡の鞄産業の源流である柳行李も一緒に展示する「玄武洞と柳の博物館」に再編成しました。

誰かに頼まれたわけでもなく、玄武洞を世の中に紹介する施設を作り始めたのは「玄武洞」という特別な場所が、自分の生まれ育った村にあったから。

2018年には現在の玄武洞ミュージアムとしてリニューアルされ、岩石・宝石・鉱物・化石の4つのカテゴリーに分けて、日本や世界各地から集められた標本が見られる博物館になりました。入り口では山陰海岸にも生息していたアジアゾウの骨格標本も見ることができます。

山陰海岸国立公園を世界のジオパークへ

2005年頃、但馬の未来を話し合う「但馬夢テーブル会議」※3で、にぎわいの郷部会長として「山陰海岸を世界の公園にする会」を立ち上げ、香住、浜坂の海岸を記録撮影していた時、環境を保護するだけではなく、地域を豊かにする「ジオパーク」という世界的な潮流が生まれているという話を耳にします。

ユネスコ世界会議の日本代表をされていた波田重熙氏（神戸大学名誉教授・神戸女子大教授）の協力を得て、山陰海岸国立公園を世界に認めてもらう活動を共に開始しました。東京で行われた地質学学会で山陰海岸の成り立ちを紹介し、2006年9月、北アイルランドのベルファストで行われた第2回目の世界大会で山陰海岸国立公園の取り組みを紹介しました。

2008年に山陰海岸国立公園は日本ジオパークネットワーク加盟。翌年の世界ジオパークへの推薦は得られませんでしたが、2010年には認定されました。

※2　山陰海岸国立公園
1963年7月15日　山陰海岸国立公園に指定。

※3　但馬夢テーブル会議
兵庫県北部の但馬地域を活性化するために約70名の地域住民ボランティアが活動する委員会。

奇跡の造形美

博物館の価値

「石のことを学び始めると、日本では地学や地質を学ぶ機会が、ほとんどないことが分かった」と田中さんは話します。日本の地形の成り立ちや、様々な鉱物の結晶を知らないのは、目に触れる機会がないからだと考え、すべて自費で鉱物の結晶や天然石を集め始めました。

「世界には見たこともない石がたくさんあって、なんて自然は素晴らしいんだと。もっと多くの人に知ってもらいたいなぁ。言葉で表現できない造形美がたくさんあるんだ。いくつもの偶然が重なって石ができる。人の手では作れない美しさに惹かれるなぁ」

時間のある時には、海外での博物館の活動を学ぶために、アメリカ、イギリス、フランスに視察へ。海外では子どもの時から生活に深く結びつき、学校教育のために博物館を活用しているのを目の当たりにしました。「日本でも地質学、地球科学の学習は大切なこと。玄武洞ミュージアムや山陰海岸ジオパークに足を運び、但馬の自然だけではなく、地球規模の視野を持ち、まだ知らない世界に興味を持ってくれたらいいなぁ」と話します。

ジオパークを教育で広めていきたい

高校で地学科の教員として教鞭をとっていた三木武行さんは、2000年頃から山陰海岸ジオパークの運動に加わります。ジオパークという概念が世間でも認知されていない時期から、県や国に働きかけ、ジオパークを普及させる市民活動に参加してきました。2009年、国内の世界ジオパークの推薦に残念ながら漏れた後、次の申請に向けての動きをけん引した一人が三木さんでした。

中国の泰山で行われた世界ジオパーク会議で当時の豊岡市長と出席し、日本列島が出来る前の時代、山陰海岸の火山活動、海の浸食などで形成された地質や地形、それがもたらした、景観、産業、食文化など複雑に絡みあったストーリーを世界に紹介し、2010年に世界ジオパークに認定される大きな力になりました。

当時は鳥取市から京丹後市までの関係者が豊岡市の庁舎に集まり、モデルコースの設定や山陰海岸の保護・保全・教育・産業・インバウンドなど、地域資源を高める活動を進めてきました。

教育委員会に働きかけて、豊岡市内の小中学校で竹野、玄武洞、神鍋を訪れ、豊岡の取り組みを学習することになったのも、三木さんの大きな成果の一つです。豊岡市の大交流課※4に所属し、各地域の老人会、お寺の行事のあとに出前講座を行ってきました。現在も八鹿高校の臨時講師を勤め、地学の面白さを伝えています。

※4　大交流課
観光政策、観光振興、観光資源の管理、自然公園、ジオパーク、城崎国際アートセンターなどを担当する課。

豊岡の見るべきスポット

豊岡にはジオの視点で見て面白い場所が多くあります。まず一つ目は「田結港(たい)」。大陸時代のゾウやサイ、鹿などの哺乳類の足跡の化石が見つかることもあります。歯の種類から、まだ日本列島が大陸と地続きだった約1800万年前のものだということが分かってきました。田結港から山側に上ってさらに進むと「捨ケ鼻灯台(すてがはな)」も見ることができます。1万年前は地球が温かかった時代で、気比のゾウ岩がある場所も昔は海だった場所です。

二つ目は瀬戸。この辺りは大変景色が良く、日和山海岸周辺の景観は圧倒されるスケールです。来日山から「田結港」方面を見ると、霧が海に落ちる景色も見られます。このあたりの地層からは植物の化石が出てくることもあります。

最後は玄武岩を利用して作られた豊岡市立「ウエルストーク豊岡」近くの大磯町の町並み。裏路地に入ると、円山川の自然を利用し、生活を共にしてきた痕跡がいたるところに見ることができます。城崎の大谿川、下鶴井、赤石などにも同じような名残が見られます。

その他にもあまり知られていませんが、玄武洞ミュージアムと奈佐森林公園の中間あたりにある「矢次(やつぎ)山」は山歩きすると面白い場所です。噴火はしませんでしたが、マグマが山頂付近まで上がってきた火山でした。最近の研究では、玄武洞と対岸の森津や伊賀谷の玄武岩は同じ時期の噴火活動だと考えられていましたが、実は違う時期の噴火だという研究結果が明らかになってきました。新しい事実が科学の進歩で分かってくるのも、地学の面白いことだと思います。

ジオパークのこれから

昨年、日本ジオパークに土佐清水が認可されて、国内の数は46カ所に増加しました。

「この先、インバウンドだけに頼るのではなく、ジオパークに住む人自らが、活性化させていく方向にシフトする時期に来ていると考えています。ジオパーク圏内で交流を増やし、近隣同士で人やお金が動く仕組みを作る段階ではないでしょうか」

地形や地質に興味を持ってもらうきっかけは、教育だけではなくて、おいしい食べ物や綺麗な景色を見るといった入り口でもいい。

「なぜここでおいしいカニが取れるんだろう、どうして綺麗な景色があるんだろうという疑問がジオに興味を持つきっかけになればと思っています」

今、官民一体の活動が広がり、玄武洞と玄武洞ミュージアムが、地域住民中心の持続可能な新しいモデルになろうとしています。

玄武洞ミュージアムとの出会い

2018年にリニューアルされた玄武洞ミュージアムの学芸員として、立ち上げ当時から関わっている中嶋灯奈さん。展示企画の立案や来館者のガイド、ワークショップの講師などを担当しています。

幼少の頃から石に興味があった中嶋さんは両親に連れられて、幼稚園と小学校の時、「玄武洞と柳の博物館」に来館し、見たことがない鉱物や奇石に興奮したことを覚えていました。玄武洞での体験が大きな要因の一つになり、小学6年の時には、将来地学の道に進むことを決意していたそう。

「出身地の鳥取中部の校庭の石は巨晶花崗岩(ペグマタイト)の風化したマサ土で、その中に大きい黒晶が入っていることがあります。小学生の頃、宝物探しのように楽しくてよく探していました」

高校では履修科目に地学がなかったため、大学から本格的に地学を学び、専攻は岩石鉱物でした。大学卒業後、大学院に在学しているときに、玄武洞の学芸員の求人をみて応募し、子どものころに感銘を受けた場所で学芸員として働き始めました。

大人と子どもが一緒に楽しめるミュージアム

玄武洞ミュージアムではワークショップを定期的に開催しています。最近開催したのは「天然石から岩絵具を作るワークショップ」。主に日本画に使われる絵具で、鉱物を粒子状に砕き、精製すると深みのある色が出てきます。同じ鉱物で作られた素材でも粒子の大きさや産地によって色合いが変化します。

ミュージアムを飛び出し、フィールドワークで神鍋火山の地質探検にも行きました。神鍋山は大きなカルデラの近くまで歩いて行ける珍しい火山で、火山の様子が残る様々な地質や風穴を実際に目で見ながら学ぶことができます。神鍋高原の万場では魚の化石や葉の化石などが見つかることもあるそうです。

中嶋　灯奈(なかしま　てな)さん
鳥取県北栄町出身。幼少の頃から石に興味を持ち、東北大学、北海道大学で地学を学ぶ。2016年から玄武洞ミュージアムに勤務。

世界から見た豊岡

但馬地方には、生野鉱山、明延鉱山、中瀬鉱山など鉱山がたくさんあり、休日には豊岡や周辺の気になる場所を見に行くこともあると言います。身近にある一つの石や化石から壮大な地球のストーリーが見えてくるのが地学の面白いところ。豊岡をジオの視点から見ると玄武洞、山陰海岸、遺跡や古墳など見どころがいくつも点在しています。

「地球の地磁気の反転が証明されるきっかけが、玄武洞だったことやすぐ側に玄武洞ミュージアムがあること。多様な地形や地質が観察でき、コウノトリを代表とする豊かな生態系もある。コリヤナギを使った豊岡杞柳細工が1200年も継承されている豊岡は、地球科学や文化、歴史を学べる特別な環境だなと感じます」

私たちの生活している、ここ豊岡の歴史、文化、伝統を知ることが、地元の素晴らしさを再発見する鍵のような気がします。

豊岡とカバンのいい関係

豊岡杞柳細工の技術を受け継ぎ、女心に響く手提籠を作ってきた伝統工芸士。
漁網再生素材から作られた鞄が誕生した豊岡鞄。
いい籠や鞄は、やっぱりここ豊岡から。

伝統工芸士になるまで

「思ったよりも指の力がいるんですよ」。

そう話しながら指先にグッと力を込め、リズムよくコリヤナギを編んでいるのは、豊岡杞柳細工の伝統工芸士である宮﨑和子さん。

杞柳細工を始めたきっかけは、34歳の時に一般社団法人但馬地域地場産業振興センターで開催された杞柳製品協同組合の杞柳細工教室に姉と一緒に通い始めたことでした。

最初の頃は、コリヤナギがとても貴重な材料のため、籐（とう）※1を使って人形や花籠（かご）を製作して、編む技術を覚える日々。様々な編み方や形などがある杞柳細工の奥深さに夢中になり、伝統工芸士を目指すようになりました。生徒の中でも手先が器用だった宮﨑さんはめきめき上達、伝統的な工芸技術の習得を奨励する事業の対象者となり、作品展では次々と表彰されるようになります。2004年には「草木染 長角模様編み 皮手手提籠」で「グッドデザインひょうご」※2大賞を受賞。1999年には雑誌「チルチンびと」で伝統の杞柳細工に新たな息吹きをもたらす人として取り上げられました。

杞柳細工教室に通い始めて12年後の2002年、高度の技術・技法を保持する人として、豊岡杞柳細工伝統工芸士に認定されました。

※1　籐
ヤシ科の植物。東南アジアを中心に熱帯雨林、亜熱帯、熱帯地域のジャングルに自生する。

※2　グッドデザインひょうご
兵庫県内に事業所を有する企業・個人が製造販売する商品に対して、優れたデザインを選定する制度。公益社団法人兵庫工業会が実施、兵庫県が選定を行っている。

コリヤナギって知ってますか?

「柳」と聞くと城崎の大谿川（おおたにがわ）のそばにあるような、長く垂れ下がったシダレヤナギをイメージする方も多いのではないでしょうか。杞柳細工に使われるコリヤナギは、シダレヤナギとは違い、地面からまっすぐ空に向かっていく種類の楊柳科の柳で、高さが1～3mほどの高さにまで成長します。

コリヤナギの栽培は春にスタート。収穫するまで、成長するにつれて伸びてくる「わき芽」を取り除く芽摘み（芽かき）という作業を定期的に行います。成長した部分を晩秋に刈り、稲刈り後の田んぼに円形のくぼみを作ってコリヤナギを束ねて立て、「冬ごもり」という冬眠状態にしておきます。

春になり、冬ごもりさせていたコリヤナギを再び田んぼに挿すと、冬眠していたコリヤナギの新芽が出始めます。新芽が出ることで、皮と茎の間に樹液がまわってはがれやすくなる状態になるそうです。

根の部分を洗い流し、二又に別れた鉄棒の間に通して1本ずつ皮をはぎ、天日干しすると、ようやく材料の白柳（しろ）の完成です。

コリヤナギが芽ぶいてから杞柳細工の材料になるまでに、最低1年以上かかる根気のいる作業です。

産業として栄えていた頃は、コリヤナギの栽培と杞柳細工の製作は分業でしたが、生産量が次第に減少してからは、宮﨑さんはコリヤナギの栽培から皮はぎ、天日干し、染色、製作まで全工程を家族に手伝ってもらいながら自ら行っています。

杞柳細工の鞄ができるまで

手提籠を製作する時には、木型を選ぶところから始めます。水につけて柔らかくしたコリヤナギを籠の底になる部分から上部に向かって編んでいきます。

形の元になる木型は大工職人だった祖父と夫が製作。家には木工加工の機械があったので、希望する木型を製作してもらえる環境がありました。手元にある木型は100以上にもなります。

材料の白柳を染色する工程も自宅の作業場で行っています。染色する色は黒色、茶色、グリーンの3色。黒色は月見草、茶色は柳の皮、グリーンはタマネギの皮を使用します。染色と媒染を30分交互に2セット繰り返すことで、植物の成分と金属イオンが結びついて発色し、染まっていきます。

植物染料と媒染剤の組み合わせで、同じ染材で染めても全く違った色になるので、染まり具合をみながら細かく調整していきます。

1200年以上受け継がれてきた杞柳細工は、編み方の種類が豊富。作る形や編む場所によって使い分け、底編み7種類、縄編み6種類、側編み33種類、縁組み18種類、蓋編み10種類の編み方があります。

伝統に自分の感性をプラスして

2009年からは兵庫県杞柳製品協同組合の後継者育成教室の講師も務めています。現在は新人コース14名、中級コース23名の計37名が在籍する人気の教室になっています。

伝統工芸士に認定されてからは「児童・生徒に対する伝統的工芸品教育事業」で講師として子どもに杞柳細工を伝える立場になりました。

宮﨑さんに杞柳細工の好きなところを尋ねると「なんせ見た目が綺麗です。柳は時間が経つと飴色のつやが出てきます。いつの時代も女の人は籠が好き。私も自分が使いたいと思うものを作ってきたんですよ」と話します。1年で製作する籠の数は70個ほど。その多くは東京からのオーダーが多いとのこと。手掛けた杞柳細工は玄武洞ミュージアムや城崎の旅館で取り扱っています。

宮﨑さんは伝統の杞柳細工の技術を受け継ぎ、生活様式の変化に合わせて女性の感性に響く、新しいデザインの籠を生み出す職人でした。

宮﨑　和子さん
豊岡市竹野生まれ。豊岡杞柳細工の伝統工芸士。兵庫県杞柳製品協同組合副理事長。

地域ブランド『豊岡鞄』の誕生

豊岡鞄®
TOYOOKA KABAN

豊岡で生まれ、発展してきた豊岡杞柳細工。「鞄の街豊岡」は杞柳細工からスタートし、時代の生活様式に合わせ、新素材や最新のミシン縫製技術を取り入れながら、日本一の鞄の生産量を誇る地域へと成長してきました。

国内で生産される鞄の多くを生産してきましたが、次第にOEM[※3]が主流となり、海外からの輸入製品に押され、豊岡の鞄産業には厳しい時代が訪れることになります。

この低迷期を何とかしようと、2006年には地域ブランド「豊岡鞄」が商標登録されました。「豊岡で育まれものづくりの長い歴史と職人の技術が生んだ優れた鞄を消費者に安心して使って頂く」というコ

ンセプトのもと、OEM中心のかばん産業から技術と地域を生かした鞄の街へと変化する取り組みがスタートします。豊岡産の鞄の中でも、兵庫県鞄工業組合が定めた基準を満たす企業によって生産され、審査に合格した製品のみを「豊岡鞄」と認定。「豊岡鞄」にはすべての商品に保証書が添付され、製造した各ファクトリーが品質を保証し[※4]、最高のクオリティーを持った鞄として評価されています。

そして、2021年には長い歴史のある豊岡鞄に、新しい一歩を踏み出す大きな出来事がありました。

※3 OEM
Original Equipment Manufacturingの頭文字をとった用語で他社ブランドの製品を製造すること。

※4 製造過程における欠陥は交換および無料修理を含め、最善の対応を約束していますが、使用に伴う摩擦、航空機利用による損傷・誤用や乱用による欠陥に対しては保証していません。

環境に配慮した次世代の豊岡鞄へ

漁網が鞄に生まれ変わった日

廃棄された漁業用の網から再生した生地を使って、ここ豊岡で鞄が作られていることをご存じでしょうか。

2020年、海洋プラスチックごみの削減と資源の循環を目的とする「アライアンス・フォー・ザ・ブルー」[※5]という組織が立ち上がり、廃棄される漁網再生生地を使い、付加価値をつけて製品として生まれ変わらせる「Product for the Blue」がスタート。

持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指してきた兵庫県鞄工業組合はこの取り組みに参加し、漁網再生生地を使用した鞄の生産を始めます。

2021年7月20日、日本財団が廃漁網素材から製造した鞄の発表会と展示会を東京で行い、海洋プラスチックごみ問題の解決の糸口と課題を話し合いました。

同年10月には豊岡鞄セレクトショップ「Toyooka KABAN Artisan Avenue」と同店のオンラインショップ、「豊岡鞄KITTE丸の内店」、「豊岡鞄伊丹空港ゲート店」で漁網再生素材の鞄の販売を開始。カラーバリエーションは淡い水色のオーシャンブルーと濃い青のディープブルーの2色で、現在20アイテムを販売しています。

※5 「アライアンス・フォー・ザ・ブルー」
公益財団法人日本財団が立ち上げた組織。海洋ごみ削減と資源循環を目的としている。

鞄ができるまで

漁網を再生した鞄は全国各地の企業が連携することで実現しました。

北海道の漁網店が使用済み漁網を回収し、ゴミの分別と洗浄をします。その後、廃棄物から有用な材料や製品を生産する素材再生企業が漁網を裁断し、加熱してペレット(小さな塊)に加工。大阪の織物会社が糸に紡ぎ、生地に仕上げました。完成した生地を使って生地の開発メーカーが鞄作りに必要な布やボタン、テープなどを製作し、豊岡鞄[※6]が製品化しました。

豊岡の鞄職人が確かな技術と誇りをもって製作し、長く使ってもらえることを目指している豊岡鞄。環境保全と持続可能な社会に貢献しているという姿勢が豊岡鞄のブランド価値をさらに高めています。

※6 豊岡鞄
2006年、特許庁に地域団体商標として認定された兵庫県鞄工業組合の登録商標。

豊岡が学べる施設

豊岡市立コウノトリ文化館
兵庫県豊岡市祥雲寺127　TEL 0796-23-7750
営業時間／9:00〜17:00
定休日／毎週月曜日(祝日・振替休日にあたる場合は、その翌日)と
年末年始(12月28日から1月4日)

城崎マリンワールド
兵庫県豊岡市瀬戸1090　TEL 0796-28-2300
営業時間／9:30〜16:30(最終入場は16:00)
定休日／年中無休

玄武洞ミュージアム
兵庫県豊岡市赤石1362　TEL 0796-23-3821
営業時間／9:00〜17:00
定休日／不定休

**一般財団法人
但馬地域地場産業振興センター**
兵庫県豊岡市大磯町1−79　TEL 0796-24-5551
営業時間／9:00〜17:00
定休日／年末年始(12/30、12/31、1/1、1/2)

津居山カニが買える店

津居山フィッシャーマンズ・ビレッジ
豊岡市瀬戸77-21　TEL 0796-28-3148
営業時間／8:30〜14:00
定休日／火曜日

津居山No.16
兵庫県豊岡市瀬戸118-4　TEL 0796-28-2054
営業時間／9:00〜16:30
定休日／水曜日

山本永二商店
兵庫県豊岡市瀬戸118−44
TEL 0796-28-2255
営業時間／定休日はお電話でご確認ください

カバンストリート

Toyooka KABAN Artisan Avenue
兵庫県豊岡市中央町18-10　TEL.0796-22-1709
営業時間／平日 11:00〜17:30　土日祝 10:00〜17:30
定休日／水曜日、年末年始

Atelier nuu
兵庫県豊岡市中央町7-28　TEL.0796-22-7732
営業時間／平日11:00〜17:30、土日祝10:00〜17:30
定休日／水曜日、木曜日(祝日の場合は営業)、年末年始

ARTPHERE TOYOOKA
兵庫県豊岡市中央町8-4　TEL.0796-22-4391
営業時間／10:00〜17:30
定休日／水曜日、年末年始

植村美千男のかばん工房
兵庫県豊岡市中央町17-13　TEL.0796-24-1318
営業時間／9:00〜17:30
定休日／年中無休

Alter Ego
兵庫県豊岡市中央町8-8　TEL.0796-21-4621
営業時間／10:00〜19:00
定休日／不定休

鞄工房 嘉玄(Kagen)
兵庫県豊岡市元町2-5　TEL.0796-24-0039
営業時間／10:00〜17:30
定休日／水曜日、年末年始

カバンコンシェルジュ キヌガワ
兵庫県豊岡市中央町18-8　TEL.0796-37-8012
営業時間／9:00〜17:00
定休日／日曜日、年末年始

まんかつ
兵庫県豊岡市中央町8-8
TEL.0796-22-5221　営業時間／9:30〜19:00
定休日／火曜日、年末年始

カバンステーション
兵庫県豊岡市中央町8-8(まんかつ内)
TEL.0796-22-2089　営業時間／11:00〜18:00
定休日／木・日曜日 祝日は営業、年末年始

カバンツクリエーション 0203
兵庫県豊岡市中央町18-25　TEL. 0796-34-6623
営業時間／10:00〜18:00
定休日／火曜日、年末年始

Decomplaboratory
兵庫県豊岡市千代田町4-16　TEL.090-6827-4597
営業時間／10:00〜19:00
定休日／不定休

トヨミ洋装店
兵庫県豊岡市中央町18-4　TEL.0796-22-2275
営業時間／9:00〜16:00
定休日／日曜日、年末年始

Flux K
兵庫県豊岡市中央町17-12　TEL.0796-22-3039
営業時間／10:00〜19:00
定休日／水曜日

manufacturing plant THE PLAN
兵庫県豊岡市中央町18-3　TEL.0796-26-7008
営業時間／10:00〜19:00
定休日／不定休

MATSUYA
兵庫県豊岡市中央町8-8　TEL.0796-23-2590
営業時間／10:00〜19:00
定休日／木曜日、年末年始

Maison Def
兵庫県豊岡市中央町18-1　TEL.050-5241-7120
info@maison-def.com　営業時間／10:00〜17:30
定休日／不定休

ROCKCANDY
兵庫県豊岡市中央町8-10　TEL.0796-26-7011
営業時間／12:00〜18:00
定休日／不定休

MATIC
兵庫県豊岡市中央町7-5　TEL.0796-20-8193
営業時間／平日 8:00〜17:00　休日 10:00〜17:00
定休日／不定休

マスミ鞄嚢
兵庫県豊岡市立野町5-1　TEL.0796-37-8177
営業時間／9:30〜17:30
定休日／火曜日、年末年始

ここで出会える！ここで買える！
あれこれ豊岡
TOYOOKA AREKORE

豊岡産品が買える店

たじまんま
兵庫県豊岡市八社宮490
TEL 0796-22-0300
営業時間／9:00〜18:00
定休日／火曜日

青空市場(公設市場)
兵庫県豊岡市千代田町4−4
営業時間／7:30〜11:00
定休日／毎月1日、10日、20日

コウノトリ本舗
兵庫県豊岡市祥雲寺14−2
TEL 0796-37-8222
営業時間／9:00〜17:00
定休日／毎週月曜日
(祝日・振替休日にあたる場合は、その翌日)
※年末年始休業日 12月27日〜1月4日

豊岡観光協会は豊岡の様々な魅力を兵庫県内外に紹介しています。そんな私たちが、今回紹介した場所にまず訪れて欲しいのは「豊岡で生まれ育った人」。昔から知っている場所も、新しい人や魅力が増えて少しずつ変化しています。車で前を通りすぎるだけだった場所も、たまには車をおりて歩いてみませんか？きっとあなたの知らない豊岡の魅力を再発見できるはずです。

〈 企画・発行 〉

豊岡観光協会
〒668-0031 兵庫県豊岡市大手町3番2号
(JR豊岡駅舎内)
TEL.0796-22-8111　FAX.0796-22-8112
HP: http://www.toyo-kan.jp

豊岡商工会議所
〒668-0041 兵庫県豊岡市大磯町1-79
TEL.0796-22-4456　FAX.0796-24-3180
HP: https://www.storkcci.jp/

ここに記載されている店舗、施設は新型コロナウイルスの影響により、営業時間の変更の場合もありますので、事前に各施設にご確認ください。